

すなお

令和3年5月号

おやのことば

往還道は通りよい、細い道は通り
難くい。なれど細い道は心に掛け
て通るから、怪我はせん。大道は
けつまずかにやららん。けつまず
くというのは、心に油断するから怪
我をする。これ聞き分けてくれ。

明治二九年十月五日



中和大教会創立百二十周年祭について

会長

大教会長様より本年十月十日開催予定の大教会創立百三十周年祭は、現在の新型コロナ感染拡大の状況を鑑みて教会長夫妻並びにおつとめ奉仕者のみにてつとめるとの連絡がありました。

十年前のように信者さん皆さんにも参拝していただけの形も模索されていたようですが、教会としても皆さんと共々に参拝に帰るとすれば、どのようにすれば、、、と。これも思案を重ねている状態でしたので、現在の国内の状況を見れば致し方ない決断だと思えます。

では、これからの私達はどうかということです。二年ほど前から一つの大きな目標として少しずつではありますがそこへ思いを重ね、昨年からは形の目標として月々の御供もつとめてきて下さいました。そのゴールが今までであれば、周年祭当日ということだったと思います。その形のゴールがいきなり無くなりました。ある程度予想をされていた人もあるかもしれませんが、現実になりました。

(次ページへ)

でも、よく考えてみれば当日、大勢の人が集まりその中の一人になることが私達の信仰の目標ではないはずです。中和に繋がるお互いが勇ませ合うのも確かに嬉しいことではありますが、これも信仰の目標ではありません。いつもお話することでもあり、自分自身が思うことでもありますが、今自分が存在していること、この心でいることができるのは信仰のおかげです。その元は親であり、上級葛城分教会であり、中和大教会、そしておちばです。そのことを忘れず、そのことをより深く感じ御恩返しを形に表してつとめる時期が周年祭です。

それは形をもって大勢で集まるか集まらないかではないと思います。これからの残る五ヶ月を報恩と感謝の思いを積み重ねその日を迎えていただきたいと思います。見える形ではなく見えない心を見つめて通る、私達一人ひとりの信仰力が試されることだと思えます。

思うことが思うようにならないこの時期だからこそ、心の底がよく見えてきます。会長として再度仕切り直してつとめさせていただきます。



小さな喜びを見つけて

窪田和也

今、世間はコロナと言う大規模な状況に悩まされている中で皆さんは日々どのように通らせていただいていますか？今回このような機会をいただけたことに感謝して、私自身気づいたことを共有させていただきます。

コロナで友達や知人と食事に行きにくくなったり、思うように外出ができなかったり、休みで帰省できなかつたりと今までできていたことが急にできなくなると自然と不満というのが出てきます。そういった中で、大事なことが日々の通り方です。

私はこのご時世の中、就職をして一人暮らしという新生活をスタートさせていただきました。そして、今日まで大きな病気にかかることなく元気に過ごさせていただき、私は心の底から「ありがたい」と感じました。当たり前のように過ぎていく時間の中で、目が見える喜び、手足が動く喜び、日々元気に通らせていただける喜びなど様々なことを実感しました。私はこのご時世だからこそ、見えてくる喜び、感じるものがあると思います。ぜひ、今一度物事の見方や捉え方を変えてみて小さな喜びを見つけてください。

今日も私は小さな喜びを見つけて陽気に通らせていただけることに感謝して務めていきたいと思えます。

”ほこりが散る「ナイスキック」”

中山慶純著『朝の信仰読本』より転載

あるとき、5歳の孫がトコトコと近づいてきて、突然「おじいちゃん、裸見たい」と言ってきたのです。「おかしなことを言うなあ」と思い、知らん顔をしていました。すると、今度は妻の所へ行って、「おばあちゃん、裸見たい」と。「どうしたんやろう、うちの孫は」。戸惑う私をよそに、妻は「はいはい、こっちへおいで」と優しく呼ぶのです。「おいおい、本当に見せる気なのか？」と様子をうかがっていると、孫はティッシュをもらって、「ちーん！」と鼻をかみました。鼻が詰まっているから、よく聞こえなかったんですね、「はだかみたい」と「はなかみたい」。でも、妻は正しく聞き取っていた。やはり、女性はずごいですね。

人間は、うっかりしていると、見間違えたり、聞き間違えたりするものです。特に心がフワフワしていると、人から言われたことを誤解して悪く受け取ってしまうことがある。心がしっかりしていれば、たとえ相手の言い方が良くなかったとしても、「この人はきっと、心や体の調子が悪くて、つい、こんな言い方になってしまったんだな」と、相手を思いやることのできるものです。

私たちが日々見せられること、聞かされること、成ってくることは、すべて親神様がなさることです。人間の運命は、それらをどう受け取り、どれだけ心のほこりを積むかで変わってきます。特に、人に対して感じる、憎い、恨み、腹立ちといったほこりは、運命を一気に落としてしまいます。

ほこりをなるべく積まないためには、どうすればいいか。以前、お笑い芸人の明石家さんまさんが、テレビでこんな話をしていました。

「横断歩道で信号待ちをしているとき、後ろで『あ、さんまや！』と声がして、突然、中学生に尻を蹴られた。ムカツときたが、『ここで暴力沙汰を起こしたら、テレビに出られなくなる』と、とっさに思い、『ナイスキック！』と返した」

周囲にほこりを撒き散らす人もいれば、撒かれたほこりを被って、ほこりまみれになる人もいるのに、さんまさんは被らなかつたばかりか、相手のほこりも散らして、ゼロにしてあげました。こういう通り方ができる人が、神様に守っていただける人なのでしょうね。

運命を落とさないように、ほこりをできるだけ少なく、小さくするコツを早くつかみましょ。人さまに喜んでもらえることを、たくさんさせていただいたら、親神様は運命をぐんぐん伸ばしてくださいませ。

中和大教会創立130周年記念祭 執行 令和3年10月10日(日)

*当日は教会長夫妻、おつとめ奉仕者のみでつとめます

教会ニュース

講社祭について

これまで講社祭をつとめるにあたり、教会の方から「参拝を控えさせていただきます」という場合もあれば、講社の方から「家族のみでつとめさせていただきます」という場合もありました。それぞれの地域の現状や家族や仕事場の状況は教会からでは判断しかねますし、感染状況の受け止め方もそれぞれに段差があるのでそれで良いと思います。今後もお互いがお互いを気遣うという上から、早めになっても結構ですので気になるときは教会へ連絡を下さい。また、この機会に講社の長になる方が講社祭の祭文を奏上していただけるように個別の祭文を作成させていただきますので、よろしくお願ひします。

太陽光発電についての報告

平成26年5月から発電を開始して今年4月をもって丸7年になります。当初の発電シュミレーション通り今月をもって設置費用500万円の返済を終了することが出来ました。今後は教会の電気代や維持管理費に充てて本体も長く大切に使用させていただきたいと思ひます。

すなお (立教184年5月号)

通 巻 No.730
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2021.5.16
責任者 二宮英治